
本当の自殺

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当の自殺

【Nコード】

N9211H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

僕は同級生に、虐められていた。石を投げられたり、顔に砂をかけられたりされてきた。その事を母に話すと、誰だって辛い時期があると言われた。そうは思えなかった僕は、遺書を残して家を飛び出すも……。

（前書き）

後味が悪いと思いますので、ご注意を。

僕は、学校からの帰り。

同級生達から、石を投げつけられた。

ごんつと、ゴムタイヤを殴ったような鈍い音が聞こえる。

視界が白く霞む。かす

やがて髪の毛の間から、ツツーと温かい血が流れ落ちていくのが分かった。

「この醜い化け物が」みにく

同級生達が僕の事を、そう罵る。ののし

取り囲んでいる全員が、蠟人形のような白い目で嘲笑あざわらひっていた。

でも僕は、これぐらいの虐めいじには慣れている。

本当は痛かったけど、我慢した。

嫌がる素振りを見せれば、同級生達はもっと虐めてくるに違いないんだ。

僕は、頬にまで流れる血も気にせずに、帰宅しようとした。

その時。

髪の毛をギュッと引つ張られ、強引に引き倒された。

そのまま僕の手足を掴まれ、無理やりに自由を奪われた。

そして、顔に砂がかけられた。

シャベルで集められた大量の砂が口やら鼻に入り込み、息が出来なくなる。

ただ、苦しくて、苦しくて。

僕がひっくり返ったカブト虫のように足掻^{あが}くが、誰も手を放してくれない。

涙や吐瀉物^{としゃぶつ}が体の中から迫り上がって来るも、栓がされているので逆戻りする。

もしかしたら、このまま死んでしまうのではないか。

そう思った時、同級生達は手を放してくれた。

僕は慌てて砂を払い、ゼーゼーと酸素を吸い込む。

その時、離れた所から、死ねーと叫ぶ声が聞こえてきた。

見ると、そこには僕の事で楽しく談笑している同級生達の姿が合った。

きっとそのまま、寄り道でもして遊びに行くのだろう。

夕日の中に、同級生達は消えていった。

僕は涙が出た。

それは苦しかったり、虐められたりしたから出たのではない。

同級生達が帰宅する姿を見て、

「あー、友達がいて羨ましいな」

そう思ってしまったからだった。

僕の目からは、涙が何時もより多く流れ落ちていた。

帰宅した後。

今日の事を母親に報告した。

すると、頭を撫でられた。

「あなたは、とても素直で優しい子ね。何時までも、そういう心を大切にしたいわ」

「……でも、辛いよ」

そう言って、僕は甘えようとした。

その時。

力強く、母は言った。

「聞きなさい。人は誰でも辛い時期があるのよ。そう誰でもよ。今はあなたの順番でも、やがてその同級生達にも回っていく日が来るわ。今は、歯を食いしばって耐えなさい」

頭をなでる母の手が、少し強くなっていた。

でも、本当に、そうなんだろうか。

辛い事が、当番制のようにグルグル回っているなんて、ありえるんだろうか。

今の僕には、そう思えなかった。

とてもじゃないが、もう待てない。

もう、辛いのは嫌だった。

深夜。

家族が寝静まった頃に、僕は家を出た。

遺書を残して。

出来る限り、母が悲しまないように書いたつもりだった。

何もしてくれない父の事は、一言も綴^{つづ}らなかった。

そして僕は死に場所を求めて彷徨^{さまよ}った。

でも、お金は一円もなかったので、行ける所は限られている。

駅前、住宅街、神社、ビル群ぐらいか。

どれも、死に場所には相応しいとは思えない。

何より近所では嫌な思い出しかないので、死んだ後に後悔が残るうに思えた。

仕方ない。

僕は、とりあえず遠出する為のお金を、父から勝手に借りる事にした。

最後なんだから、それぐらい良いだろう。

そう自分に言い聞かせ、僕は家に戻った。

すると深夜にも関わらず、明かりが付いていたのである。

家に近づくと、大声で話す母と父の会話が聞こえてきた。

「ようやく、あの子が死ぬ事を選んでくれたわね。長い間、逃げないうよう精神的に追い詰めてきた甲斐があったわ」

「ああ。あの醜い化け物の顔を見て、何度殺したいと思った事か」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9211h/>

本当の自殺

2011年1月13日06時31分発行